



# OpenChain JWG 第12回会合

**Panasonic Corporation**

**加藤 慎介**

**[kato.shinsuke@jp.panasonic.com](mailto:kato.shinsuke@jp.panasonic.com)**



# **OpenChain JWG 12th Meeting**

**Panasonic Corporation  
Shinsuke Kato  
kato.shinsuke@jp.panasonic.com**

- **OSSコンプライアンスにおいて、情報収集や情報共有の場で、他社の良い事例を聞ける機会も増えてきたと思います**
- **一方で、広く議論する場はあっても、その場限りで終わってしまい、各自が自分のメモを頼りに社内へフィードバックする、などという状況が多いと感じています**
- **フリーディスカッションの場で情報を集めることができても、テーマが発散しがちなケースもあり、あえてケースを絞って各社の状況を話す、というようなことはあまりないと感じています**

**そこで、テーマを決めて、各社の状況をそれぞれ発表し、下記の効果を目論見ます**

- **テーマに沿って、ケーススタディを集めることで、参考にしやすい／新しい気付きがある、などの効果を期待**
- **似ている状況の他社のケースから、良い点を社内にフィードバック**
- **発表形態：1社持ち時間は2～3分として、状況(実状)をプレゼン**
  - **あえてある程度フォーマット化してシンプルに**
  - **その中でポイントと思う点、などを含める**
  - **匿名希望(A社, B社)もOKとして、出来れば議事(Wiki)に残す**

- **There are many opportunities(events) where we can hear overviews of OSS compliance practices in other companies.**
- **On the other hand, the discussions in such cases usually tend to be ad hoc, and knowledge in the discussions may not be archived and organized.**
- **In addition, free discussions tend to diverge to many themes randomly.**

**Therefore I would like to propose holding a lightning talk which is focused on one specific theme in advance.**

- **To collect case studies in one specific theme in one meeting, and repeat again. I hope the case studies may be easy to refer, and readers may become aware of new practices.**
- **A case study of a company in a same level or situation as your company may give you a good suggestion.**
- **Short presentation within 3 minutes by each company.**
  - **Presentation format is pre-defined in advance, in order to collect important points.**
  - **A presentation material is allowed on the condition of anonymity.**
  - **A presentation material is stored in Wiki.**

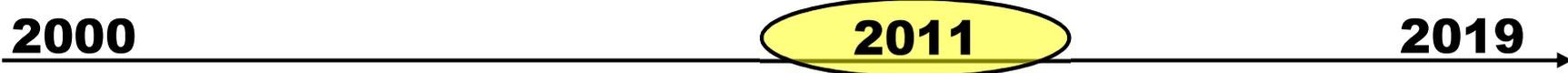
## • **Tips of the case study**

- **独自フォーマットもOKです。ただし「1枚」で**
  - **出来れば英語版も作成いただけると助かります**
    - **英語版は、なし/後日、でも構いません**
- **「資料なし。当日口頭での発表」もWelcomeです**
  - **資料は当日のみ投影可、の場合は「Wiki:NG」に○してください**
- **「某X社」、「某社」、「匿名希望」、でも構いません**
- **「何が良い・悪い」、ではなく、参考になる点を見つけられる機会になれば、というスタンスです**
- **できれば1ファイルにしてWikiに掲載したいです。理由は、その回に参加できなかった方にも参考にして頂くため、です**

- **Tips of the case study**
  - **Original format by an attendee is acceptable, but within 1 page.**
  - **“No material, only aural presentation” is acceptable.**
  - **Condition of anonymity is acceptable.**
  - **We do not judge “Good” and “Bad”, but want to find reference companies in the same situation.**
  - **We want to disclose the materials on Wiki, so that member who could not attend can read later.**

- 社内のOSSコンプライアンス推進、体制/組織としては、こんな感じ
- OSSコンプライアンスの教育、こんな感じ
  - 技術者への説明の導入で、どんなことを伝えている？
  - 定期的なOSSコンプライアンス推進(啓発)に、していることは？
- OSSコンプライアンス推進を社内でどうするか？
  - OSPO(もしくはそれに準じる組織/活動)が出来るきっかけ。OSPO立ち上げの課題、苦勞、ポイント
  - 活動があるフェーズから次のフェーズに移行(拡大)した際の、ポイント
  - 子会社・孫会社対応は？ 海外対応は？
  - 技術以外の職能の協力の取り付け方やアプローチの仕方
  - 人員や予算、どう確保する？ 世代交代は？
  - みんなの日々の活動ってどんなの？ (あるAさんの1週間)
- OSSへのコントリビューションの際のあれこれ
- OSSコミュニティと社内ルール・文化の、様々なギャップ克服
- OSS活動・OSSコンプライアンス活動、の社内評価の話
- 各社の「バッドケース」「ヒヤリハット」事例共有

- **OSSコンプライアンス活動が、拡大したときのポイントは？**
- **例：**
  - 「**個人のワークから組織のワーク**」に変わった。ときの話・ポイント
    - 数名のボランティア活動的な状況から組織の中の活動になった。
  - **味方を増やした・増やせた。ときの話・ポイント**
  - **連携する職能が広がった。ときの話・ポイント**
  - **社外の活動に参画できるようになった。ときの話・ポイント**  
など
- **上記をいろいろ聞くことで・・・**
  - **活動をスタートする人 / 広げていく人、にとって、参考になるかも**
    - 組織化のノウハウ、味方の増やし方、他の職能との連携のやり方、社外との連携のきっかけ、など
  - **単純に、いろんな経緯を聞きたい**

会社名	パナソニック株式会社		Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	加藤 慎介		記載日	2019/11/22
現状 記載日 時点	組織	専属組織あり / <b>バーチャル</b> or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone		
	人数	100人以上 / 数十人 / <b>10~20名程度</b> / 数名 / ひとり / ゼロ		
時期				

■概要: **ボトムアップ・ボランティアベースの活動 ⇒ バーチャルながらも活動が見える形に**  
 技術・法務・知財で連携して動いていたが担当者は明確にしていなかった状態、から、技術・法務・知財の担当者を個人名で明確化した。それにより、各機能部門内でも活動が改めて認知され、担当者も動きやすくなった。職能内での横連携も強化された。

■契機/きっかけ

社内で、ソフトウェア関係の**委員会活動発足のタイミングで、OSSコンプライアンス対応を**  
**入れ込んだ。**

■ポイント

**OSSコンプライアンスのみを目的とせず、大きなスキームにOSS関係を入れ込んで、その後、育てるという作戦。**反省点としては、その後、継続性への注力を怠ったこと。**HQでの旗印/旗振りが弱くなると、活動は継続も「改善」がなくなりがち。**活動や人員の更新・メンテや、定期的な経営層への報告、は継続必要。

会社名	ソニー株式会社		Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	上田 理		記載日	2019/11/26
現状 記載日 時点	組織	<b>専属組織あり</b> / バーチャル or <b>コミュニティ型</b> / 担当者レベル / Alone		
	人数	<b>100人以上</b> / 数十人 / 10~20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ		
時期	2002		<b>2011</b>	2019 →

## ■概要

- 2002年ころから一部のOSSライセンス遵守ガイドラインや基本ポリシーはできていた。かなり長い期間一部のメンバーでメンテナンスし続けていた。

## ■契機/きっかけ

- OSSの利用が決定的に各事業ユニットで一般化したことが大きなきっかけとなり、社内標準書が策定された。これが現在の状況に至る大きなターニングポイントになった。

## ■ポイント

- 何があっても諦めずに続けること。継続できるやり方は何かについて知恵を絞り実行する。
- 社内公式文書が作れる機会を探り、積極的に取り組む。そのような活動に協力的な人をリスペクトし社内コミュニティ形成の核とする。

<b>Company</b>	Sony Corp.		<b>Wiki</b>	<b>OK</b> / NG
<b>Writer</b>	Satoru Ueda		<b>Date</b>	<b>2019/11/26</b>
<b>Current</b>	<b>Organization</b>	Dedicated organization / Virtual or community type / by each employee / Alone		
	<b>Number of person</b>	Over 100 / 99-21 / 10-20 / few / one / zero		
<b>Time</b>	2002		2011	2019 →

- **Outline**

- **At around 2002, some OSS license guideline and OSS policy were created. Since then it had been maintained by limited people.**

- **Turning Point**

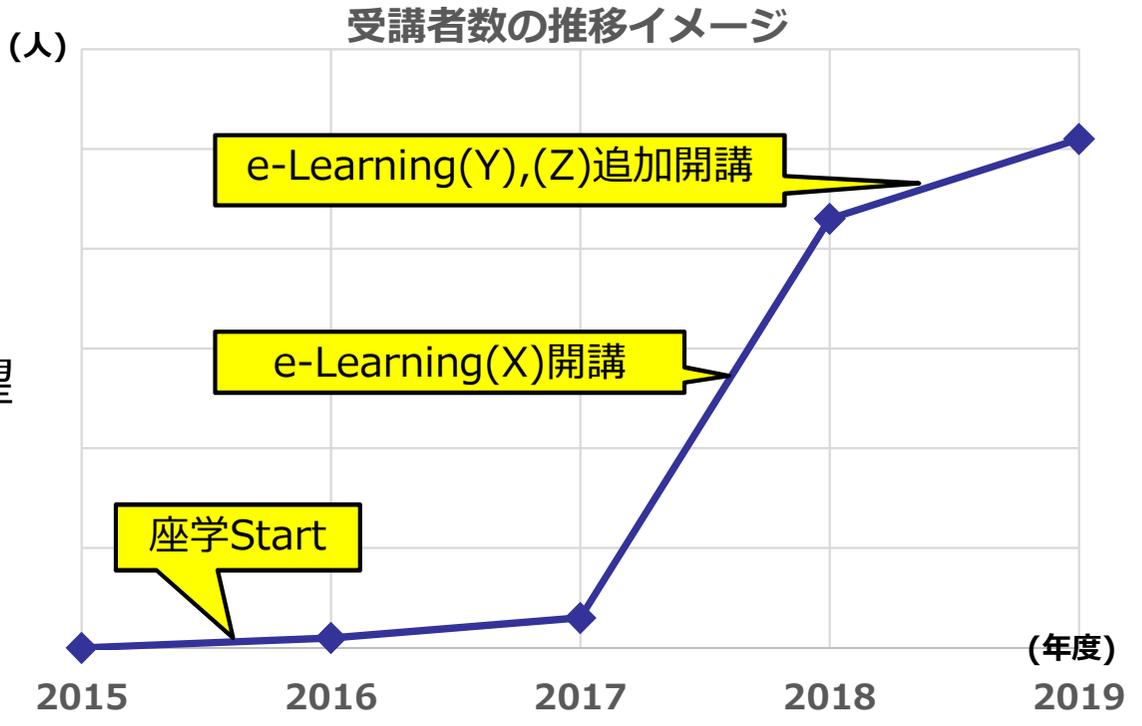
- **Burst of OSS use for many business units led creation of in-house technical standard to deal with OSS. It was the turning point toward current situation.**

- **Key issue**

- **Never give up. Think the way to sustain the OSS promotion work and take action.**
- **Opportunity to create in-house official guide line is the good opportunity to go ahead. The persons who collaborate the creation work must become core persons to create in-house OSS promotion community.**

会社名	株式会社 日立製作所		Wiki掲載	OK / NG
記載者	片桐 和宣 (OpenChain Japan WG_FAQSWGメンバ)		記載日	2019/12/19
現状 記載日 時点	組織	専属組織あり / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone		
	人数	100人以上 / 数十人 / 10~20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ		
時期	2015/10(4名でStart)		2019/12 (数十名)	

- 概要：OSSコンプライアンス  
教育内容・教育機会の拡充
- 契機：OSSを事業で活用するために  
必要な基礎知を学ぶ機会の提供
- ポイント：  
e-Learning研修は、“時間・場所を気にせず  
に教育を受講したい”という要望に  
応えられ有効。  
但し、e-Learning研修教材を作っただけでは  
ダメで、デリバリーを含め教育を管掌する  
部署等と連携が必須。  
今後の受講数の伸びに乞うご期待！



会社名	富士通株式会社		Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	大内佳子		記載日	2019/12/12
現状 記載日 時点	組織	専属組織あり / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone		
	人数	100人以上 / 数十人 / 10~20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ		
時期				

## ■概要

- ・2005年頃、コンプライアンス部門の指導の下、各ビジネスグループ毎にOSSのガイドラインを作成し運用。
- ・2010年、全社横断となる社内コミュニティ「OSS利活用WG」を立ち上げ、各ビジネスグループで培ったノウハウを集結し、「OSS利活用ガイド」を作成。その後、本ガイドを各ビジネスグループの品質規格に盛り込むことで全社展開を実施。
- ・組織化されたOSS技術センターを中心に2019年11月にOpenChain認証取得。
- ・現在、OSS技術センターとOSS利活用WGにより活動中。

## ■契機/きっかけ

職制異動によりビジネスグループ間での入れ替えが発生。各ビジネスグループでの共通基盤となるものが必要との認識から課題意識のあるメンバが集まり、検討することになった。

## ■ポイント

特定の部門でのOSSの活動を社内にPRすることで、各ビジネスグループ内で活動していたメンバが、自部門でも共通課題を持っていることを認識、集合して、全社横断としてのWG立ち上げ、ノウハウの集結や教育教材の整備等につなげることができた。

<b>Company</b>	FUJITSU LIMITED		<b>Wiki</b>	<b>OK</b> / NG
<b>Writer</b>	Yoshiko Ohuchi		<b>Date</b>	<b>2019/12/12</b>
<b>Current</b>	<b>Organization</b>	<b>Dedicated organization / Virtual or community type</b> / by each employee / Alone		
	<b>Number of person</b>	Over 100 / <b>99-21</b> / 10-20 / few / one / zero		
<b>Time</b>	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <span><b>2000</b></span> <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;"><b>2010</b></span> <span><b>2019</b></span> </div>			

## HISTORY OVERVIEW

- \*Around 2005: Creating and start implementing individual OSS guidelines for each of the business groups (BGs), guided by internal compliance division.
- \*2010: Establishing OSS Utilization WG, a company-wide internal community, and edited "OSS Utilization Guideline" that combines accumulated know-how of BGs. The guideline was afterwards deployed throughout the company, by incorporating it into individual Quality Standards of BGs.
- \*Nov. 2019: Becoming OpenChain Conformant, led by OSS Technology Center, which was formal OSS organization in the company.
- \*Current: Activities led by OSS Technology Center and OSS Utilization WG.

## TRIGGERS

Editing of company-wide OSS Utilization Guideline was started because BG-specific OSS guidelines needs updating every time BGs are reorganized. Sharing recognition that common base for each BG guidelines, willing members got together and completed the Guideline.

## KEY POINTS

By gathering and publishing OSS activities in the company, we shared recognition that people active in different BGs have common issues and that recognition resulted in activities of company-wide WG, collecting know-how and editing educational materials.

会社名	NECソリューションイノベータ株式会社(NES)		Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	島 直道		記載日	2019/12/11
現状 記載日 時点	組織	<b>専属組織あり</b> / バーチャル or <b>コミュニティ型</b> / 担当者レベル / Alone		
	人数	100人以上 / 数十人 / <b>10~20名程度</b> / 数名 / ひとり / ゼロ		
時期	<b>FY2012</b>	<b>FY2014~2016</b>	<b>FY2018~2019</b> →	

### FY2011以前

組込を中心に現場レベルでの対応

### FY2012~2013

組込業界を中心にライセンス違反が騒がれ始める...

#### FY2012

**品質保証部門・法務部門が主導**

NECグループ全体のルール策定

- OSSのBoMを管理
- ライセンス遵守
- ツールによる検証

#### FY2013

NECの品質マネジメントシステムに統合

### FY2014~2015・FY2018~2019

OSSの活用増に伴う品質・セキュリティ面のリスク増

#### FY2014~2015

**OSPO(NEC OSS推進センター)主導**

NECグループ横断の活用推進TFにNESも参画

OSS利用の判断に対して指標を制定

- ノウハウ集約し現場への情報提供強化
- コミュニティ活動支援の盛り込み

FY2016 NESの品質マネジメントシステムに反映

#### FY2018~2019

NECと共同で現場のOSS利活用を促進するためサポート範囲を強化したプロセス策定

会社名	NEC		Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	OSS推進センター 米嶋 大志		記載日	2019/12/11
現状 記載日 時点	組織	<b>専属組織あり</b> / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone		
	人数	100人以上 / <b>数十人</b> / 10~20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ		
時期	FY2001		FY2012~2014	
				FY2019

## FY2012以前

### FY2001

前身組織結成。Enterprise Linuxに向けた取り組みをスタート

### FY2001~2011

基本自社製品、  
OSSは必要がなければ使わない時代  
お客様の要望ベースでOSSの提案

### FY2012

法務・品推と共に社内ガイドラインを初発行

## FY2014~2019

### FY2014

NECグループ横断の活用推進TFを立ち上げ  
社内で「**推奨OSS**」を定義  
OSS活用情報を集めた**ポータル**の運用も開始

### FY2015

積極的なOSS推進を主眼とした文書の発行を開始

### FY2018-19

OSSの活用フェーズ毎のリスクを見直し  
社内でフローをプロセス化 & システム化

会社名	匿名希望	Wiki掲載	<b>OK</b> / NG
記載者	匿名希望	記載日	2019/12/12
現状 記載日 時点	組織	専属組織あり / バーチャル or コミュニティ型 / 担当者レベル / Alone	
	人数	100人以上 / 数十人 / 10~20名程度 / 数名 / ひとり / ゼロ	
時期			

## ■概要

こっそり、OSSを利用してきた。Linuxの利用に起因する障害が市場で発生したことからOSS利用について表立ったプロセスを定義した。

さらに、社内で注目されるシステムにOSSを利用することで、法務部門まで、少し、巻き込むところまで来た。

## ■契機/きっかけ

機械メーカーの中で、OSSの存在は、市場での障害を「うまく」利用することから、OSSへの取り組みが始まった。

## ■ポイント

QMSが存在する組織では、担当者や開発チームだけの取り組みを、組織だった取り組みに広げるには、QMSの問題にすり替えることが重要です。

<b>Company</b>	<b>Anonymous</b>	<b>Wiki</b>	<b>OK / NG</b>
<b>Writer</b>	<b>Anonymous</b>	<b>Date</b>	<b>2019/12/12</b>

<b>Current</b>	<b>Organization</b>	Dedicated organization / Virtual or community type / <b>by each employee</b> / Alone
	<b>Number of person</b>	Over 100 / 99-21 / 10-20 / <b>few</b> / one / zero



■ **Overview**

**I've been using OSS secretly. We defined a prominent process for the use of OSS due to the failure in the market caused by the use of Linux. Furthermore, by using OSS for a system that is attracting attention within the company, we have come to a point where the legal department is involved.**

■ **Trigger**

**Among machine makers, the presence of OSS has started to work on OSS because it has “successfully” used the failure in the market.**

■ **Point**

**In an organization that has a QMS, it is important to replace QMS issues in order to expand the efforts of only the person in charge and the development team to the efforts of the organization.**